

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 156 号

令和元年 06 月 1 日発行

発行所: 旭労災病院

〒488-8585

尾張国守平字北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

新病院がスタート!

循環器科部長

森本 高太郎



5月から新元号令和となり新病院がスタートしましたと同時に理念も変わり地域医療のキーワードも入りました。

新病院の病室はきれいでわりと広く気持ちがいいものです。しかし最後に旧病院の記憶を一つ取り上げたいと思います。

早春のある日、心肺停止で運ばれた高齢の方が見えました。後遺症も寝たきりが十分考えられます。

救命室で息を吹き返した後の現実的な目標をどこに置くか、我々もスタッフも日々悩むところがありました。

ひとまず季節がら車いすに乗って桜の花をみることができるようになることを目指しました。

実際、旧病棟の重症個室から毎年桜の花を間近で見ることができていましたので。

満開の花が咲くある日、車いすに座るその患者さんと目薬をさしてあげている看護婦さんの2人を目にすることができました。今年は4月になっても気温が上がらず特に美しく長く咲いていたように記憶しています。

桜の木の下に屍が埋まっている、といったのは梶井基次郎だったでしょうか。ふとそのことを思い出しました。

話はそれますが一昨年春、家族で本巢の奥にある薄墨桜を見に行きました。

岐阜には全国最多の第3セクター鉄道があり、その一つ樽見鉄道の終着駅付近にそれはあります。

列車に揺られながらこの赤字路線、運営のモチベーション、目的はなにか、興味が湧きました。

経営団体は民間+県と沿線自治体で半々の出資の法人です。

現在は近くのセメント工場の資材を運ぶ貨物運輸もおこなっておらず、大量輸送の鉄道のメリットは生かせない筈です。観光資源は多少あるようですがこれを含めても大きな赤字です。

地域の老人の方々の為、ということなのでしょう。

最初はそう考えましたが調べていくうちに状況は少し違うようで意外でした。

沿線地域の学生を特に大垣近辺の学校まで通学させることが大きな支えとなっていると報告書にはあります。

子供の安全と教育に鉄道が地域貢献しているという図式でこれに異論は今のところない、ということのようです。高齢化社会における地域貢献の盲点かもしれないとも思います。

平成の最後の桜の季節をもってして新病院へ移転しました。

新病棟は現在まだ満床ではありません、空きがあります。

新病棟の窓から今度は何が見えるのでしょうか。我々にもまだわかりません。

高齢者の低栄養について

管理栄養士 木村華委子

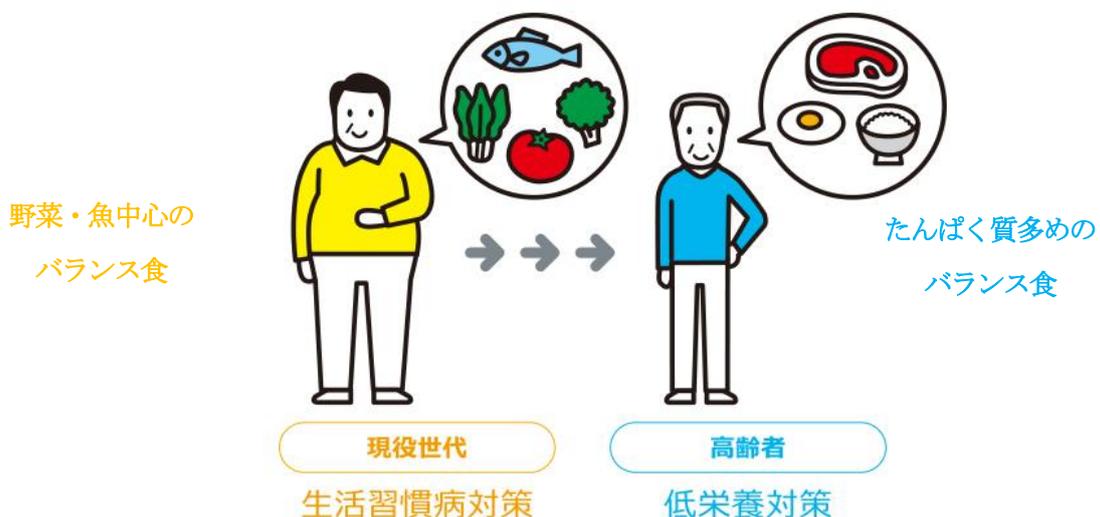
低栄養とは、「食事の量が減ることで、体を動かすために必要なエネルギーやタンパク質、健康維持に必要なビタミン、ミネラルなどの栄養素が不足した状態」を指します。低栄養の原因にはさまざまなものがあります。たとえば、高齢になると「嚙んだり飲み込んだりする力（咀嚼・嚥下能力）の低下」「運動量の低下」「胃や腸などの消化機能の低下」「食べることへの興味の薄れ」などにより食べられる量が減ることがあります。

低栄養の症状の中で、目に見えてわかりやすいものが体重の減少です。低栄養による体重減少の代表的な症状は、「褥瘡のリスク」「転倒リスクの増加」「運動機能の低下」「骨折のリスク」「免疫力の低下」などがあります。

低栄養の予防にはさまざまな食品をバランスよく食べることが大切です。しかし、独居高齢者では、食材の調達が難しいことがあります。そのような場合は、宅配のお弁当の利用、缶詰や冷凍食品など保存がきく食品を買い置きしておくなど、食事がしやすい環境を整える必要があります。

低栄養になってしまったら1日3食にこだわらず、一回の食事の量を減らし、そのぶん食事の回数を多くすることも有効的です。また、たんぱく質が含まれたプロテインパウダーやビタミン剤などを料理に加えたり、カロリーや各種栄養素が含まれた「栄養補給食品」などの利用も栄養改善には有効があります。

最後に、**高齢者の低栄養を予防するには**、年齢・ライフステージによって食生活を見直し、「メタボ対策」から「低栄養対策」へのギアチェンジをすることが大切です。



最新MRI装置の導入と各種X線装置の更新

中央放射線部長 信藤 邦男

2019年5月の新病院開院に伴い、MRI装置、CT装置、一般撮影装置、血管撮影装置等の画像診断機器の多くが更新されました。その中でも、最新MRI装置「SIGNA Artist-T 1.5T」GEヘルスケア・ジャパン社製について幾つかの機能を紹介したいと思います。

【概観】

患者様が入る空間が広くなりました。従来は直径60cmでしたが70cmと広くなり、開放感が高まりました。

【着脱型撮像テーブル】

MRIは強力な磁石を用いており金属などは持ち込めません。そこで、安全性を考慮し着脱型撮像テーブルを採用しました。検査室外でのセッティングや、万が一検査中に何か起きたときにスムーズに対応でき安全に検査を行うことができます。

【Hyper SENSE】

圧縮センシングという技術を活用して、少ないサンプリングデータから画像を再構成する機能で「撮像時間の短縮」「高分解能撮像」が可能となるアプリケーションです。

【SILENT SCAN】

世界で初めて「音のしないMRI検査」を可能とした画期的な技術です。発生する騒音をいかに小さく抑えるかという従来の「静音化」技術とは異なり、検査環境音に対して、わずか3dB以下の音量で撮像する技術です。患者さんに安心して検査を受けていただけたと思います。

注) すべての検査撮像シーケンスではありませんので、ご注意ください。

【PROPELLER MB】

全身領域の各種コントラスト・任意断面撮像において、体動によるアーチファクトの抑制が可能となる撮像技術です。

【IDEAL&FLEX】

局所磁場不均一が引き起こすアーチファクトはMRIにとって大きな課題と言えます。その中でも脂肪抑制画像の不良は正確な診断の妨げとなる場合があります。ピクセルごとの局所磁場不均一を計算し再構成する2つのアプリケーションを装備し、従来、脂肪抑制が困難な領域・部位においても均一な脂肪抑制撮像が可能です。

このように、患者様にも優しく高画質が期待できる装置です。その他の検査も含めて今後ご利用下さい。

